

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟  
競技本部長 山口 剛  
競技部長 蒲生 志津雄

## 競技会での救急事故の対応について

競技会出場選手の高齢化に伴う、救急医療事故等への対応を検討し、事前準備、初期対応時の対策案を作成いたしました。

競技会開催の事前準備の際に、下記の内容を確認しておくことを推奨します。

### 1、緊急時を想定し手順と係分担を決めておく

- ①救護担当者、可能ならば医師、看護師、救急救命士等の関係者が望ましいが、少なくとも、大会実行委員の中で「救急救命講習会」の講習経験がある人が良い。
- ②競技長は、救護担当者の意見を聞き、次なる対応を決め、全体をまとめる責任を負う。
- ③状況に応じ、複数で体育館事務所に届け出、一人は「AED」を速やかに現場に運ぶ。  
又、救護者からの体調等の状態を把握した者が、消防に救急要請をする。
- ④誘導係、救急車の搬入口や通路を確認しておき、当日の誘導をする。
- ⑤必要に応じ、緊急時連絡先を調べる係(大会申込書や組相手等から)を決めておく。
- ⑥必要に応じ、用品搬入係（毛布,担架,シート等）を決めておく。

### 2、体育館等の設備の確認

- ①AEDの設置場所
- ②事務所との連絡、連携の方法
- ③救護室、保健室等の設備と内容
- ④救急車搬入口や通路確保の確認

### 3、救急備品等の確認

- ①救急箱(湿布薬、消炎鎮痛スプレー、バンドエイド、包帯、三角巾、ガーゼ、テーピング  
消毒薬、マスク、使い捨て手袋、携帯酸素缶、体温計、血圧計、ティッシュ 等)
- ②毛布、担架、簡易ベッド、ブルーシート(プライバシー保護などに)など。

### 4、体調管理の呼びかけ

競技長注意や司会アナウンスで体調不良の時は無理をしないように等呼びかける。

### 5、スポーツ傷害保険の加入

保険内容を把握し、手続等を理解しておくこと。

### 6、消防(赤十字)等の「救急救命講習会」への参加

競技会実行委員を担当する人は、可能な範囲で「救急救命講習会」の受講が望ましい。